

IAUD Newsletter vol.10 第4号(2017年7月号)

1. グローバルインタビュー2016①.....1
2. 「2017年度第1回定例セミナー(IAUDアワード説明会)」開催のご案内.....7
3. 「第16回UD検定初級」「第10回UD検定中級」開催のご案内.....8
4. 「第12回48時間デザインマラソンワークショップ in 東京」参加者募集のご案内.....9
5. 「国際UD会議開催15周年記念 予稿集・論文集・講演集 限定セット」販売のご案内.....9
6. 「第6回国際UD会議2016 in 名古屋」開催レポート公開.....9
7. IAUD 7月の予定.....10



2020年までの日本のUDに期待すること

グローバルインタビュー2016①

情報交流センターでは、2016年12月に名古屋国際会議場(愛知・名古屋市)で開催された「第6回国際UD会議2016in名古屋」において、海外からご参加いただいた有識者5名にグローバルインタビューを実施しました。

インタビューでは、日本や国際会議の開催地である名古屋のUDの印象や2020年の東京オリンピック・パラリンピックのUDに向けて必要に思うことを、有識者の方々の国やビジネスと比較しながら答えていただきました。

Newsletterでは有識者5名のグローバルインタビューを今号と次号の2回にわたりお伝えします。

今号は、レイナー・ウェスラー氏(フロッグデザイン社副社長・アジア局長:米国)、ポー・リンネマン氏(クリエイティブディレクター/建築家/コントラプンクトデンマーク・東京代表兼共同設立者:デンマーク)のインタビューを掲載します。(インタビュアー:情報交流センター所長 北村和明)

2020年は日本とIAUDにとってUDへの意識を高めるターニングポイント

レイナー・ウェスラー(フロッグデザイン社副社長・アジア局長:米国)



レイナー・ウェスラー氏

—日本や名古屋にいらして、印象はありますか？

私は7年前に上海のスタジオでフロッグ社のクリエイティブチームを率いるようになりました。

最近の仕事の中心はアジア地域だったため、日本には市場として馴染みがあります。美しく、デザインが素晴らしい国ですね。

名古屋に来るのはこれが初めてですが、工業都市ということでとても興奮しています。

中国を拠点としているため急速な発展を目の当たりにしてきましたが、それは常に製造業に付随していますので、日本とどう比較できるか見てみたいと思っています。

—「第6回国際UD会議 2016in 名古屋」では基調講演「デザイン変革～人間中心デザインによるビジネス及び社会の変革～」をしていただきました。この会議の印象はいかがでしょう。

まず何より、この会議に世界中から実に多数の著名人が参加していることに非常に感心しました。スポンサーも素晴らしい企業ばかりです。

日本は世界のどこよりも急速に高齢化が進んでいるため、今回は日本の皆さんのためになるようUDを利用する良い機会です。

さらに、瑤子女王殿下のご臨席により、会議の価値と重要性が非常に高まりました。

また、参加者がさまざまな年齢層を代表していることに気づきました。多様な年齢層のデザイナーと他の分野の専門家ならびに専門的見地が一堂に会することで、会議に多様性がもたらされ、参加者全員にとって興味深い経験となっています。



ウエスラー氏の基調講演の様子
(名古屋国際会議場)

—ありがとうございます。次の質問ですけど、デザイン会社としてやはり色々なお客様とお付き合いする事があると思いますが、そのUDの面でお客様の要望やデザインしていく上で気をつけている事があれば教えてください。

当社のクライアントの事業区分は多様化しています。例えば、現在のトレンドは「コネクテッド介護」です。

私は国土が小さく人口の多い国で育ち、故郷では介護をする側とされる側のバランスがうまく取れていました。介護をする側とされる側は同じ場所において、例えば私の両親は私の祖父母の面倒を見ていました。

しかし家族がどんどん離れて暮らすようになり、人々の寿命が延びるにつれ、別の形で介護が提供されるようになっていきます。人は自立しなければなりません。相互依存型の介護よりも、遠隔ケアと高度な社会的ケアが求められています。

現在中国では人口構造が逆ピラミッド型で、これは数年間続くと予想されます。

そのため介護と被介護者について新しい概念が必要だと感じていますが、似たような混乱は多くの業界のクライアントにも見られ、事業を多角化して状況の変化に対応しようとしています。

もう一つ目にはしている変化は、クライアントが顧客志向のデザインや変化と革新のためのデザインという特定目的向けの特別なデザインとは対照的なものを求める傾向があることです。

つまりクライアントが革新的な物の創造だけでなく、もっと広い意味で革新と変化を求めているということです。実際、この傾向はオーストラリアとシンガポールで始まっており、現在北米と中国でも見られるようになっていきます。

もう一つの傾向はサイレントコンピューティングです。例えば、現在コンピューターはスマートフォンや携帯電話に取って代わられつつあると認識されていますが、フロッグ社では将来、家と車がコンピューターとして使われるだろうと予測しています。

現在、既に車を「車輪の付いたコンピューター」として見えています。つまり、家と車が周囲を取り巻く環境の中でパターンを検知し、行動や習慣を割り出して、次に何をすべきかアドバイスするのです。これはもう始まっています。

サーモスタット(温度調節器)などの日常的な物に代わる、ライフスタイルにとっての支援や補助となるような新しいシステムの開発が続けられるでしょう。

例えば私たちが毎朝 7 時に起き、コーヒーを淹れて飲み、お風呂に入るといった情報をテクノロジーが検知することが可能です。

将来のソフトウェア技術は、その情報と健康や衛生状態についての追加情報を基に私たちについて多くのことを推測し、理解できるようになるでしょう。

それによって健康増進のために日々の生活で変えられる点をテクノロジーが勧めてくれるようになります。このようなお勧めに従わないと決めたとしても、少なくとも何時にお風呂に入り、適切な温度でお湯を出すつもりかをテクノロジーは把握するでしょう。

しかし技術は単純な作業の役に立つだけでなく、そのずっと先に進んで、すぐには明らかにならないような健康についての情報を実際に予測することが可能です。

一つ例を挙げると、西洋では誰もが知っている小説家のアガサ・クリスティーは、70 年間執筆活動を行いました。その作品はとてもユニークです。あるカナダの言語学者でソフトウェアのプログラマーでもあった男性が、アルゴリズムを使って彼女の作品を分析しました。特に調査したのは、著作の中で使われた言葉の多様性、カテゴリー、使用頻度、それから曖昧さでした。

分かったのは年齢が 62 歳頃になったとき、言葉の多様性が減り、曖昧さが増したことです。このような変化が作品の中で起こっても本は売れ続けましたが、調査を実施した言語学者によると、調査結果からクリスティーがアルツハイマー病か認知症を患っていた可能性があると思われるそうです。

ですから、人間の行動を自宅やオフィスなど周囲の環境が検知し、アガサ・クリスティーが自身の著作の中で経験したような日々の癖の変化を認識できれば、こうした環境が私たちの健康状態を見分けられる可能性があります。

今後はこのようなシステムが開発されるでしょう。私はこの話をよく例として使うのですが、この例のポイントは、データの共有や収集から予期せぬ結論が導き出されるかもしれないということです。

—人間や家の状態を、ソフト化でカバー出来るというのは素晴らしいと思いました。

おっしゃるとおり。あり得ます。確かに、私たちがどう製品や技術を利用するかによって、異なる情報が得られることもあるでしょう。

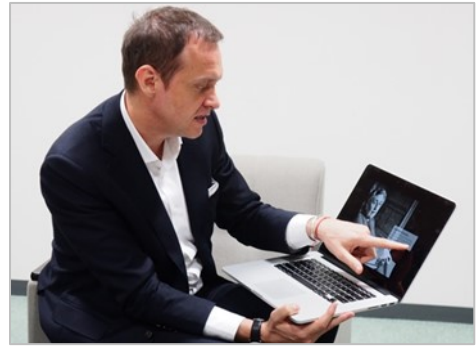
1 つのデバイスだけでは意義ある洞察を得ることはできないかもしれませんが、数が増えればそうなるかもしれません。まだマスマーケットではこういった家は見られませんが、もう間もなく登場すると思います。

—ありがとうございます。次を最後の質問にさせていただきます。

2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、私どもの組織や日本について「こうした方がいい」など期待がありましたら、教えて下さい。

まずは日本がオリンピックの開催地に選ばれたことにお祝いを申し上げます。

UD を普及し、推進する良い機会になりますから素晴らしいことです。別の見方から言えば、日本と IAUD がこの機会を捉え、自らにプレッシャーをかけて UD の推進に一層力を入れることを期待しています。



フロッグ社の UD の取り組みを説明

同時に、これによって UD がより目に見える形で人々に普及するでしょう。ひとつ期待しているのは、デザインが製品やサービスに使われるだけでなく、それ以上に製品同士のやり取りを促進するものとなり、人々にデザインについて考え、デザインに目を向けるよう促すことです。

通常デザインはデザイナーだけが行いますが、社会全体がデザインを意識するようになれば社会はもっと良くなるでしょう。

もちろんオリンピックの前と後に日本を訪れ、自分の目で日本の変化を確認するつもりです。

私の意見と考えについてお話しできて良かったです。このような機会をいただきありがとうございます。

—本日は本当にありがとうございました。(了)

レイナー・ウェスラー氏略歴:

世界最大規模のデザインファーム「フロッグデザイン社」で、金融サービスと電気通信産業分野をリード。現在は同社上海スタジオでクリエイティブチームのリーダーを務めており、2009年よりアジア地域担当。

同社の前には Sapient、iconmobile、Vodafone Group に勤務。心理学の学位取得し、エルゴノミクスとユーザー中心のデザインプロセスと評価を研究した。

これまで、「Bloomberg Green Summit」「Internet of Things Asia」などの国際会議で講演しており、中国のトップメディアにも頻繁に取り上げられている。

※レイナー・ウェスラー氏のインタビューは以下のサイトでも閲覧できます。

<https://www.iaud.net/network/8801/>

コミュニケーションの重要性を過小評価してはいけない

ポー・リンネマン (クリエイティブディレクター/建築家/コントラプункトデンマーク・東京代表兼共同設立者:デンマーク)



ポー・リンネマン氏

—リンネマンさんは武蔵野美術大学で教えていらっしゃるのですが日本について詳しいと思いますが、日本における UD についての印象はどのように感じていますか。

ヨーロッパと比べて、日本の方が UD に関して明確な定義をしていて、これまでヨーロッパが介入できてないところも踏み込んだ形で取り組みをされていると思います。

—実際に学生に教えていて、日本の学生の UD に対する理解度はどのように考えていますか。

まず、学生さんの理解の前に、私自身のデザイナーとしての UD に対する考え方ですが、UD というのはデザインそのものに対する考え方・アプローチといえると思います。

特に、一部の限られた人のためにデザインを絞り込んでいく事によって、より多くの人に提供出来るようになるという事です。

この UD の考え方を全てのデザインの開発に取り入れていく方が、全体としてより良い結果が出ると私は考えています。

UD=人の生活をより楽にしてあげる(簡潔にする)事、バリアを取り払うという事ですが、これはテクノロジーと人との間にあるバリアを取り除く、それから公共の場でのアクセシビリティ、バリアフリーを更に高める事を目指しているという風に考えています。

つまり、これをやる事で人はどのように考え、どのように行動するか、という事を理解していくという事が UD の根本であると考えています。

日本の学校の場合(特にデザイン系の学校)、UD に関する理解が実際の授業より進んでいると感じています。日本の学生の方が、海外の学生より UD に対して割く時間が非常に多い。

名古屋学芸大学を昨日訪問したのですが、その際に、先生が学生に対して「社会の中で自分達がどういう風に社会全体に貢献できるのか、そういった考えを持てるようになるのか」を指導している様子を見ました。

—「第6回国際 UD 会議 2016in 名古屋」では「セッション 3:産業振興の UD1~デザインシンキングによる共有価値の創造」にご登壇いただきました。こちらの会議の印象はどうか。

名古屋の全体的イメージというのはないですが、直近で聞いたものはとても素晴らしかったです。

また、世界の各国から専門家の方々を一同に介する事が出来た事、そういった中で知識の共有が出来ること自体も素晴らしい事だと思うし、このような場に参加させていただける事も非常に光栄だと思っています。

—空港の設計などもされているとの事ですが、日本の空港の UD についての進み具合はどのようにお考えになりますか。

2020 年の東京オリンピック・パラリンピックも控えているので、空港の施設や街の様子それ以外でも「ここをこうの方がいい」というご提案があれば……。

なかなかいい質問ですが、難しい質問でもあります。日本に住んでいるという中で、謙虚な気持ちで日本を色々と見ているので、日本は素晴らしいと思っているし、何かこちらから提言する事は具体的にはないと思います。

特に、インフラ・公共施設の機能に関しては、世界をリードしているのは日本だと私は考えています。

日本の場合、何か移動する際に困った事や渋滞、人がたくさんいるとかそういった煩わしさがなく、全てがスムーズに動いている。

特に物の移動や交通機関に関しては、問題なくスムーズに動いているという印象があります。また、アクセシビリティに



日本の UD について述べるリンネマン氏 関しても非常に高く評価しています。

ただ、1つ提案出来る事があるとすれば、日本は問題解決・それから事を進めるという事は優れている(機能という意味では素晴らしい)が、ただ、デンマークという国から来た人間としては、機能だけではなく見た目の美しさを重視する所もあるので、単なる機能だけではなく、人が

見て魅力を感じるような、機能以外の見た目の美しさも改善出来るのではないか、と思います。

付け足すと、レナードのデザインというのは全ての要素で人に優しく出来ていて、見た目もいし心に訴えかける何かがある。しかし、日本は「機能的にはすごくファンクションだけど心に訴えかけてない」という事です。

―見た目の美しさという、「デザイナーが頑張ってるUDの機能+スタイリングと色々と努力すべき」という風に思いますね。

あと、デザインにおける心の問題(おもてなしする、という心)というのも大切にして、外国の方がいらっしゃったら進んでご説明する等、日本でもそういう面を進めていこうと考えています。

また、IAUDとしても2020年に向けて更に心のUDを進めていこうと思っていますが、我々IAUDという組織に対して何か意見や希望があれば、最後に聞かせてほしいです。私たちだけではなく、色々な企業が参加しているので…。

コミュニケーションデザイナーとしては、やはり多言語の間でのコミュニケーションというのは重要だと思います。特に、外国人の方(日本人ではない方)が来られた時、実際に日本語の中での動き方・行動の進め方を出来る限り分かりやすく説明できるような形でコミュニケーション・メッセージを出していかないといけないと私は考えています。

ですから、日本語ではない言語を使う事によって外国人の方にもメッセージを明確に伝えていく必要があります。

特に私はコミュニケーションデザイナーとしてタイポグラフィというものを開発して、円滑なコミュニケーションのサポートをしていきたいと思っています。

2020年に向けて多くの方が色々な場所に訪れていると思いますが、東京の色々な街を歩いていると日本語の情報と英語の情報が並列している時に、何か違うように感じます。同じ情報が同じ視覚的気持ちで取り入れられる事をやった方がいいと思っています(例えば、ピクトグラム等)。

あとはサインの場所ですね。日本は情報が多すぎて、「こっちに行ったらあっち」というサインが色々な場所にある。特に駅だと分かりづらい。人が本当にちゃんと見える位置に配置するというのがUDですよ。

コミュニケーションの重要性を過小評価してはいけないと私は考えています。

外国人が「日本の公共の場でメッセージが理解できない」、特にどの方向に何があるかについての情報が理解できない時に、「自分達は阻害されている、馴染めない」といった気持ちを持つので、そういった形でもっとアクセシビリティの高い表示・情報提示をする事によって、より日本の中で受け入れられていると感じ、快適に過ごす事ができると考えています。

―サインの改善については、これから日本も頑張っていこうというような話も聞いているので、今聞いた話の内容が実現できれば、と思います。本日は本当にありがとうございました。(了)

ポー・リンネマン氏略歴:

デンマーク王立芸術アカデミー建築学校卒業後、主に国際的な企業のデザインやブランドアイデンティティ、ブランドタイプフェイスのデザインに従事。デンマークデザインアワードを17回受賞した他、多数の国際的なデザイン賞を受賞。

1985年にコントラポイント共同設立。デンマークの官公庁や国際的な企業のブランディングを手がけ、2011年と2016年にCreative Circleからベストデザインエージェンシー賞受賞。

母校である王立芸術アカデミーでも教鞭をとり、2006年より武蔵野美術大学客員教授。

※ポー・リンネマン氏のインタビューは以下のサイトでも閲覧できます。

<https://www.iaud.net/network/8819/>

次号の Newsletter vol.10 第5号(2017年8月号)では、グローバルインタビュー2016②として、トーマス・バーデ氏(ユニヴァーサルデザイン研究所 CEO:ドイツ)、パドミニ・トラット・バララム氏(ヴィスバ・バラティ大学デザイン教授:インド)、シンガナパリ・バララム氏(DJ デザインアカデミー学長:インド)のインタビュー掲載します。ご期待ください。



(左より)バーデ氏、パドミニ氏、シンガナパリ氏

※これまで実施したグローバルインタビューはこちらをご覧ください。

<https://www.iaud.net/network/>



経済産業省の講演も同時開催

2017年度第1回定例セミナー(IAUD アワード説明会)のご案内

IAUDはUD社会の実現に向けて、特に顕著な活動の実践や提案を行なっている団体や個人を表彰する「IAUD アワード 2017」を今年も実施するに伴い、審査体制や応募詳細について説明する「2017年度第1回定例セミナー(IAUD アワード説明会)」を、7月10日(月)にサンケイプラザ(東京・大手町)において開催します。

当日は総裁の瑤子女王殿下ご臨席のもと、IAUD アワード審査委員からの審査体制の説明や過去のアワード大賞・金賞受賞者による応募に至る経緯や受賞後の反響等の紹介を行います。

また、「UD2016 開催報告」を大村秀章愛知県知事(予定)と金庭宣雄名古屋市議員にしてください。ほか、「第1回定例セミナー」として経済産業省 商務情報政策局 クリエイティブ産業課 デザイン政策室の藤原宗久良氏による講演「成長戦略とデザイン政策」も開催します。どうぞ奮ってご参加ください。



「IAUD アワード 2016」プレゼンテーション
(名古屋国際会議場)

※「2017年度第1回定例セミナー(IAUD アワード説明会)」お申込みはこちらをご覧ください。

<https://www.iaud.net/activity/8859/>

※「IAUD アワード 2017」詳細はこちらをご覧ください。

<https://www.iaud.net/award/8600/>



東京開催！オリンピック・パラリンピックのヴォランティアにも役立つ 「第16回 UD 検定初級」「第10回 UD 検定中級」開催のご案内

第16回 UD 検定・初級 講習会 & 検定試験

日時：9月2日（土）9:00～12:00

会場：芝浦工業大学芝浦キャンパス（東京・芝浦）

講師：古瀬 敏氏（静岡文化芸術大学名誉教授）
講習会（2時間）とUD 検定・初級試験（1時間・50問）のセット形式で実施します。

合格後に「UD 検定・初級 認定証」を発行します。
名刺への記載も可能です。

※詳細は以下のリンクを御参照ください。

https://www.iaud.net/ud_certification/8864/



第14回初級検定の様子
（名古屋国際会議場）

UD 検定・中級検定試験 事前講習会

日時：8月3日（木）9:30～17:10

会場：コクヨ株式会社 東京品川オフィス（東京・品川）

講師：古瀬 敏氏（静岡文化芸術大学名誉教授）
和田 紀彦氏（IAUD 検定委員）

UD 検定・中級公式テキストブック「知る、わかる、UD」の検定ポイント
解説を中心に、UDに関するさまざまな知識や情報を講習します。

昼休みにはコクヨ株式会社のオフィス見学を行います。

※詳細は以下のリンクを御参照ください。

https://www.iaud.net/ud_certification/8871/



UD 検定中級公式テキストブック

第10回 UD 検定・中級 検定試験

日時：9月2日（土）9:30～11:30

会場：芝浦工業大学芝浦キャンパス（東京・芝浦）

試験方式：2時間・140問 ペーパーテスト。問題は公式テキストブックに準拠して出題します。

合格後は「UD 検定・中級 認定証」を発行します。名刺への記載も可能です。

※詳細は以下のリンクを御参照ください。

https://www.iaud.net/ud_certification/8871/

UD を生活者と共に考え、デザインする

「第 12 回 48 時間デザインマラソンワークショップ in 東京」参加者募集のご案内

ワークショップ委員会は、8 月 31 日(木)から 9 月 2 日(土)までの 3 日間、UD を生活者と共に考え、具体的なデザイン開発とプレゼンテーションを行う「第 12 回 48 時間デザインマラソン ワorkshop in 東京」を芝浦工業大学芝浦キャンパス(東京・芝浦)にて開催いたします。

今回のテーマは「オリパラへ、そしてオリパラ以降の観光」。2020 年に向けて、外国人観光客だけではなく、全ての人々が「楽しむ」街づくりをデザインし、最終日にはプレゼンテーションを行います。

現在、IAUD 会員やデザイナー、エンジニア、マーケター、プランナー、研究者を対象に参加者を募集しております。

※詳細は以下のリンクを御参照ください。

<https://www.iaud.net/48hdm/8922/>



瑠子女王殿下もご臨席された
昨年のプレゼンテーション
(芝浦工業大学芝浦キャンパス)

国際 UD 会議の集大成

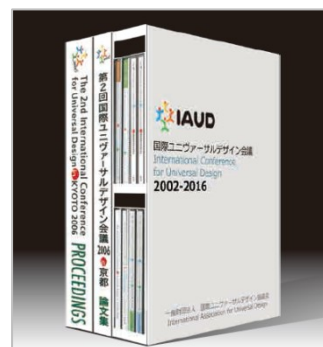
国際 UD 会議開催 15 周年記念 予稿集・論文集・講演集セット 限定 200 組販売

IAUD はこの度、国際ユニヴァーサルデザイン会議開催 15 周年を記念して、これまで実施した 6 回の国際 UD 会議で作成した予稿集・論文集・講演集セットを、限定 200 組販売いたします。

セット内容は CD-ROM12 枚と書籍 2 冊です。是非この機会にお買い求めいただき、学際的、業際的な広がりを見せる UD の国際的知見に触れていただき、皆様の研究開発の一助になることを願っています。

お申込み・詳細は以下のリンクを御参照ください。

<https://www.iaud.net/conference/8520/>



予稿集・論文集・講演集セット

世界 30 ヶ国から約 12,000 名が来場

第 6 回国際 UD 会議 2016 in 名古屋」開催レポート公開

2016 年 12 月 9 日(金)から 11 日(日)までの 3 日間、名古屋国際会議場(愛知県名古屋市)で開催された「第 6 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2016 in 名古屋」の開催レポートが公開されました。

基調講演やセッション、特別報告、併設展示会などの開催内容が掲載されています。ぜひこちらよりご覧ください。

<https://www.iaud.net/conference/8665/>



UD2016 開催レポート

月	火	水	木	金	土	日
3	4	5	6	7 14:00～ 研究部会 @TOYOTA DESIGN INTERSECTION	1/8	2/9
10 13:30～ 第1回定例セミナー(IAUD アワード説明会) @サンケイプラザ 14:20～ 移動空間PJ 交通エコロジー・ モビリティ財団講 演 @NEC 本社ビル	11	12	13	14	15	16
17 海の日	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27 14:00～ 衣のUDPJ @IAUD サロン	28 13:00～ 標準化研究WG @IAUD サロン 13:00～ 手話用語SWG @リコー	29	30
31						

無断転載禁止

次号は2017年8月発行予定

特集: 第1回定例セミナー(IAUD アワード説明会)開催報告ほか

IAUD 情報交流センター(IAUD サロン):

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4階
電話: 03-5541-5846 FAX: 03-5541-5847 e-mail: info@iaud.net